

おとり作物を利用した根こぶ病対策

三浦半島地区事務所

三浦半島地区事務所では、減農薬栽培技術として、おとり作物を利用した根こぶ病対策に取り組んでいます。おとり作物とは、土壤中の菌を減少させる作物のことをいい、葉ダイコン「CR-1」やエンバク「ハイオーツ」が知られています。



図1 葉ダイコンの栽培状況

平成17年度から、葉ダイコン「CR-1」を根こぶ病多発生ほ場で、継続して栽培しました(図1)。後作のキャベツに根こぶがわずかにできましたが、収量に影響のあった年はありませんでした。

しかし、おとり作物は土壤の菌密度を徐々に減少させるもので、ほ場により効果に違いがあります。そのため、根こぶ病を発病しやすい「大阪しろな」を用いて、おとり効果を確認する方法を検討しています(図2)。

「ハイオーツ」のおとり効果については、平成19年度から取り組み、現在調査中です。



図2 大阪しろなの根こぶ

<「CR-1」の処理方法>

- ① 5~6月に「CR-1」を6L/10aは種する
- ② 1ヶ月以上栽培し根を深く張らせてから、すき込む
- ③ 1ヶ月以上腐植させ、「大阪しろな」をは種する
- ④ 約1ヶ月後、「大阪しろな」の根を調査し、農薬処理を検討する
- ⑤ 土壤分析結果に基づいて、pH矯正や施肥設計する

<注>

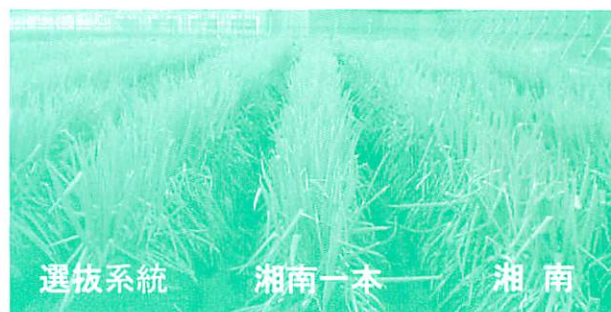
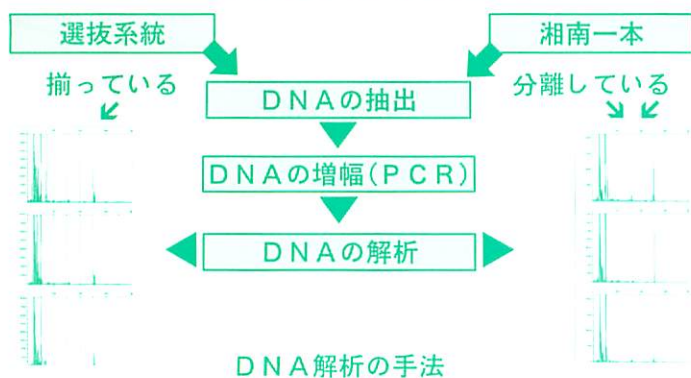
ネビジン粉剤は休眠孢子の発芽を抑制し、おとり効果が低下するので併用は避ける

ネギ新品種「湘南一本」に遺伝子の目印を付ける

野菜作物研究部

農産物の産地表示について関心が高まる中、野菜についても品種を識別する技術の開発が求められています。そこで、良食味で葉折れや分けつの少ないネギ品種「湘南一本」に遺伝子の目印を付けることを目的として、筑波大学および(独)野菜茶業研究所と共同研究に取り組みました。

まず、遺伝子35の組合せの中から目印として利用可能な2組に絞り込み、その遺伝子を持つネギ同士から種を採りました(選抜系統)。次に採れた種を用いて栽培し、遺伝子に目印を付けたことの影響等を調査しました。その結果、選抜した系統では、遺伝子が揃って存在するとともに、収量等は全く変わらず、「湘南一本」に遺伝子の目印を付けることができました。



選抜系統の収量調査